

事例の指導経過（指導を受けた事例）【記入例】

1. 区分

事例の タイトル	自己流で日常生活の管理(運動・服薬)を行う利用者への支援
-------------	------------------------------

必ず事例のタイトルを入れてください

※基礎資格とは、介護支援専門員実務研修受講試験受験時の受験資格区分です。「看護師」「介護福祉士」「社会福祉主事」等

指導者	していた	基礎資格	社会福祉士
主任介護支援専門員		主な経験等	地域包括支援センター
指導を受けた担当者		基礎資格	介護福祉士
(受講者本人)		主な経験等	居宅介護支援事業所
相談のきっかけ	包括支援センターで担当していた方が入院し、退院時に介護度1判定が出たため、引き継ぐことになる。 退院後、自宅での服薬・リハビリに関して、助言をしてもご本人に受けいれてもらえず、困っていたため担当されていた包括の主任介護支援専門員に相談をすることとなった。		
指導・支援を受けた期間	令和 6 年 10 月 ～令和 7 年 4 月(約 7 月) ※「期間」とは期間中に複数回の指導・支援も含む		

過去に主任介護支援専門員へ相談した内容でも可。事例検討会で相談した内容でも可。

2. 主訴・悩み（相談した内容等）

既往に高血圧・糖尿病があり、転倒して胸椎圧迫骨折をした。腰痛・膝痛があるが、運動に関しては積極的に出かけるが、足のふらつきがあり、注意力に欠ける動作(急な動作・不安定な動作等)を行う。内服管理も自己判断で薬を止めてしまう。痛みが強くなると多量に服薬することがある。ご本人は「平気、平気」と聞き流し、家族やケアマネからの助言を聞かない。楽観的な性格・過信もあり、新たな怪我や体調悪化を懸念。助言を聞き流すため、対応支援について悩んでいる。

3. 主任ケアマネから受けた指導内容

利用者の行動の理由や背景、考えや意向を理解する為、利用者との十分な面談が出来ているか、関係性を築けているか、利用者主体の支援になってしまっているか自身を振り返ること。
また、地域ケア会議等で事例提供し、自分では気が付けない部分を多職種から助言をいただいてみてはとのことであった。

4. 指導経過を通じてケアマネが得た気づき等（ケアマネ自身の変化等）

自信をなくてしていたので、前担当ケアマネや、多職種からの意見を聞くことで見えてこなかった対応策を知ることができた。自らの支援方法の見直しや、相談が出来る支援があることで、諦めずに利用者へ関わることが出来るようになった。

5. 指導を受けたが他の主任介護支援専門員にも相談したいと思った点等（演習での検討のポイント）

関係性の出来ていた前任ケアマネの方がよかったと言われてしまうと、困ってしまう。関係性を築いていくか悩んでいます。皆さんはどのように対応されてますか？
困難事例に対しての前向きに支援していくための方法があれば教えていただきたいです。
また、多職種との連携をもっと取りたいと思っているのですが、相談が出来る多職種交流があれば知っていますか？

全て支援経過を記載せず、指導を受けた経過記録を記入してください。
行が足りなければ、足して記入してください。
経過記録が不十分ですと、出し直しになる可能性もありますので、詳細を記入をお願いします。

6. 主な指導を受けた経過記録（適宜追加）※下記「項目」……相談、助言・同行訪問・会議への参加

年月日	項目	内容
R6年10月3日	相談	妻より退院時に、介護1になったので担当してほしいと依頼。担当となる。
R6年11月1日	訪問・助言	妻より、服薬せずに痛みがある時のみ服薬を増やしたり、飲まない日が続いたりするので、本人に注意して欲しいとのこと。服薬一覧を確認し、服薬カレンダーの提案をし、血圧や糖尿病もあるので服薬管理を、ご家族を交えて行うっていくことを提案。
R6年12月4日	同行訪問	ご家族よりオーバードーズしており、足元がふらつきが酷いとのこと。包括支援センター(前任者)に相談すると一緒に訪問することとなる。訪問時、信頼関係が出来ている前任者の言うことには耳を傾けている。
R7年1月10日	自宅訪問	長男に注意されて、前よりもきちんと服薬するようになったが飲み忘れた薬を、痛みがひどい時に多飲しているとのこと。このままだと、倒れるのではないかと心配されていた。
R7年1月10日	包括相談	地域包括支援センター(前任者)に相談して、多職種で話合う場を設けるので意見を聞いてみればいいのか？と話になる。

R 7 年 2 月 1 5 日	多職種連携会議	多職種連携会議にて、事例提供を行う。主治医師からは、最低限の服薬にして対応するとの回答あり。また、本人は粉薬が苦手とのことだったので、錠剤に変更してもらう。また、薬剤師からのアドバイスで分包ではなく一包化して飲み忘れがないようにご提案いただく。PT からは、歩行時のふらつきがあるので自宅でも出来る下肢筋力強化の提案されたのと、医療保険での膝のリハビリも提案していただく。
R 7 年 2 月 2 7 日	自宅訪問	上記の件で、服薬変更の件・リハビリの件を説明し、ご本人・ご家族様から了承を得たため、来月から変更する事となる。
R 7 年 2 月 2 8 日	主治医連絡	主治医に連絡して、内服薬の変更をご本人様の許可を得たことをお伝えする。
R 7 年 3 月 5 日	通院訪問	通院時、同席し多職種連携会議の内容を医師に説明し、内服変更となる。医師からも服薬をしないと高血圧・糖尿病が進行していくとどうなるかと詳しく説明していただく。
R 7 年 4 月 1 0 日	自宅訪問	妻より、服薬が安定したとのこと。ご本人は、以前より身体の不調が減ったとのこと。膝の痛みも自宅で筋トレするようになったら、調子がよく散歩に行けるようになったとのこと。
R 7 年 4 月 3 0 日	連絡	内服が安定し、症状も落ち着いていたことを包括支援センターへ報告し、相談を終了とした。